

(論点についての意見)

【救援物資の受入れについて】

阪神・淡路大震災でも、全国から救援物資が大量に到着した。当初は、市役所などに送られてきたものを、職員やボランティアが手作業で物資を降ろし、仕分けし、避難所等へ配送するため車両へ積み込みを行った。

震災に伴う道路交通網の寸断や交通渋滞のため、物資が到着する時間や配送される時間が定まらず24時間体制で対応した。また、送られてくる物資が多様であり、仕分けなど膨大な作業をこなさなければならず、当初は、物資の在庫状況が把握できず、物資の要求に即座に応えることができないといった混乱も生じた。

そのため、神戸市では、早期に市内に複数の配送拠点を設けるとともに、専門の業者に物流全体をお願いし、スムーズに処理できるようになった。

その経験からも、災害時、救援物資を受入れにあたっては、宅配業者など民間事業者と物流対策をまかせるシステムを創設することが必要だと考える。

【災害廃棄物について】

災害廃棄物の処理は、復旧・復興を迅速に図るために、いち早く取り組むべき課題である。特に、道路の廃棄物を除去して車両等が通行できるようにすることが、人命救助や復旧を進めるのに大切である。

災害廃棄物については、神戸市には布施畑という大きな処分場があり、また、コンクリガラなどは、港の空いたところに埋め立て処理することができたが、廃棄物処理は事前によく考えておき、環境対策もしっかりとしていく必要があると考えている。

以上のことから、災害廃棄物については、この調査会の早い段階で検討すべきテーマだと考える。

【共助の取り組みについて】

阪神・淡路大震災のような大規模な災害時に最初に頼れるのは、地域の共助である。そのためにも、平時から地域のつながりが大切であり、防災に関するコミュニティづくりを支援していく取り組みに、神戸市では大きな力を注いでいるところである。

また、復興にあたっては、神戸市ではまちづくり協議会をつくって地域の意見を聞いてまちづくりを進めた。行政の考えは地域から否定されることも多かったが、常に将来のまちのことを共に考える姿勢で話し合いを進め、最後には地域の皆様にも納得いく形でまとまったと思う。